

平成30年7月18日

臨床研究に関する公開情報

横須賀共済病院では、より良い診断・治療を目標として様々な臨床研究を行なっております。今回下記の臨床研究を実施いたしますので、研究の計画・方法についてお知りになりたい場合、患者さまご自身のカルテ情報や検体・試料を研究に利用されることをご了承できない場合などがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。なお、研究にご了承できないことをお申し出なされた場合でも、患者さまの診療に不利益が生じることは一切ございません。

[研究課題名] 循環器病棟における理学療法士の病棟配置による効果に関する研究

[研究責任者] 木村 充広 リハビリテーション科

<役職> 理学療法士 主任心得

[研究の概要]

当院のリハビリテーション科は、各病棟でリハビリテーションを実施しています。

病院の機能分化が推し進められている昨今、当院の地域における高度急性期病院という役割はより一層高まり、医療効率の改善による在院日数の短縮化や、他職種協働によるチーム医療によって患者様の満足が得られる医療の提供が課題となっています。このような背景の中、リハビリテーション（リハ）科では、平成27年度より患者さまの治療の場でもある病棟にリハスタッフを配置し、早期介入や他職種連携を実践したリハサービスを提供しています。

本研究は、全国的にも珍しいリハスタッフの病棟配置に焦点を当て、従来の介入方法と比較するものです。対象とする病棟は、筆者の配属である循環器病棟（CCU、A棟3階、B棟3階、B棟2階）に平成27年4月1日から28年3月31日までご加療された患者様です。27年10月1日を病棟配置初日とし、配置前後の比較を行います。比較する主な内容は、歩行機能をはじめとする運動機能や日常生活活動（ADL）のスコア、また在院日数等です。

現在、病棟配置が開始され3年が経過しています。他方面より評価をいただき、一定の効果を示す報告も挙がっておりますが、その一方で、病棟リハで使いたい平行棒やマットを主とする必要機器がない（使用できない）、トレーニングスペースが保てない、専門職として後進の指導がしづらいと言った問題も包含しております。本研究ではこれらを総合的に分析しより良い高度急性期病院のリハビリテーションのあり方を考える材料とさせていただきます。

得られた結果は今年の10月に福岡県で開催予定の第67回共済医学会（福岡国際会議場）で口述発表する予定です。また更に第二次研究として対象数を増やし異なる学会で発表する可能性もあります。

[研究の方法]

●対象となる患者さん

虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）

バイパス術、カテーテルによる血管形成術、ステント留置術、血栓除去術

末梢血管疾患（閉塞性動脈硬化症等）

心臓弁膜症（人工弁置換術、弁形成術、不整脈手術）

腹部、胸部大動脈瘤（人工血管置換術、腹部大動脈瘤ス
 Tentグラフト治療）

※上記疾患にて平成27年4月1日から平成28年3月
 31日までの間に当院循環器内科、心臓血管外科（CCU、
 A3、B3病棟またはB2病棟）に入院されカッコ内の治
 療を受けられリハビリテーション（PT）を実施された方。

●研究に用いるカルテ情報、試料・検体

カルテ情報：

*：診断名、年齢、性別、身体所見、検査結果（血液検
 査、画像検査、心電図検査、等）

[研究の期間] 横須賀共済病院 臨床研究倫理委員会 審
 査承認後から2019年8月31日まで

[研究の発表]

● 第67回共済医学会にて口頭発表

2018年10月17日から2018年10月18日

（福岡国際会議場）

[問い合わせ先]

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、情報・試料が当該研究に用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

〒238-8558 神奈川県横須賀市米が浜通 1-16

国家公務員共済組合連合会 横須賀共済病院

電話 046-822-2710 (代表)

(平日 午前8時30分から午後17時15分まで)

FAX 046-822-9139

連絡先対応者 研究責任者 木村 充広

内線 7301

*お問い合わせ内容によっては、こちらから改めてご連絡

をさせて頂くことがあります。あらかじめご了承ください。
以上